

防草マットの維持管理方法

耐用年数って…実際に現場で使用した結果？

屋外使用する製品選択の重要なポイント“耐用年数”…多くの製品はウェザーメーター等による促進耐候性試験の結果を元に、安全率などを加味した上で設定・公表されており、非常に有効な指標であることは間違いありません。しかし、促進耐候性試験はあくまで特定の環境因子を主要因子として製品の経年劣化度合いを計る試験であり、製品の用途によっては求められる機能の実効年数を表すとは限りません。

中でも防草マットは過酷な屋外暴露状態で使用され、雑草という多様な生態をもつ生き物を対象とした機能が求められる事から、**有効な耐用年数は実際に現場で得られた経験値に基づく必要がある**と私たちは考えます。



施工後約 20 年経過した現場



雑草を抑える十分な強度を有する

防草マットの天敵は土埃…

防草マットを敷設し長期間経過した現場では、地表の盛り上がった場所や斜面では完全に草を抑えているのに窪んだ場所や法尻などでは雑草が繁茂している現場をよく見られますが、これは防草マット自体が雑草を抑える強度を保っているにも関わらず、風や通行車両の土埃の巻き上げによってできるマット上の土だまりに飛来した雑草の種子が根付いてしまう現象で全国至る所で見られる現象です。

平地や斜面では土だまりはできにくい



窪んだ場所や法尻では土埃が溜まりやすく、土だまりに雑草が発生してしまう・・・

このようにいくら防草効果が高くても防草マット上に土埃が溜まってしまうと“防草”という本来の目的を維持できなくなりますので、土埃は正に防草マットの天敵であると言えます。

防草マットの維持管理方法

“土だまり”から雑草が発生してしまった例&ツタ植物(クズ)が上に乗ってしまい覆う事象

防草マット施工直後の写真

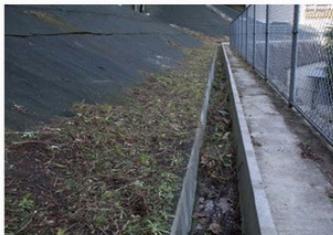


クズ植物が上を覆う事象



*防草マット上にツタ植物が乗っているだけ。根本を除去すれば対処可。

下2枚の写真は同現場の施工後約10年経過したものです。防草マット自体は強度を保っており、雑草の貫通は見られませんが、法尻に土埃が堆積し“土だまり”ができてしまい、そこに飛来した雑草の種子が発芽し、雑草が繁茂しています。ツタ植物が覆う事象も**根本の発生箇所**を再度、接着剤・テープで塞げば、再発生を防げます。



ちょっとした維持管理作業で 20 年も可能？！

20年間防草効果を持続させるための維持管理について

防草マットにとって天敵となる土埃。しかし逆の見方をすれば天敵である**土埃の除去(清掃)**という簡単な**維持管理作業**を数年おきに行えば、防草マットの有効耐用年数を、製品本来の実用強度保持年数まで無駄なく容易に伸ばすことが可能ということになります。

すなわち現場施工から数年おきに**メンテナンス(土埃の除去など)**を行えば非常に低コストで防草マットを張り替えることなく現場の雑草管理が可能になります。メンテナンス次第で耐用年数は大きく変わります。

